

矢作川流域圏懇談会通信

R5 市民部会発勉強会（バスツアー）



発行日：令和5年11月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆令和5年市民部会発 バスツアーを実施しました！

勉強会（バスツアー）は、新型コロナウイルス感染拡大により延期せざるを得ない状況が続いていましたが、新型コロナウイルスが5類に引き下げられたことから、今回ようやく実施することができました。

山・川・海の各部会が持つ課題や問題点を共有し、共通認識のもとに流域連携を進めていくため、矢作川上流から下流、海までを視察し、各地点のテーマや課題等について話し合いました。



実施日：2023年9月13日（水）～14日（木）

参加者：延べ48名 ＊事務局含む

◆バスツアー実施工程

1日目：9月13日（水）

■集合：愛知環状鉄道新豊田駅西口 8:45

① 水源涵養モニタリング調査サイト（豊田市大洞町）10:00～11:10

解説者：蔵治光一郎氏（東京大学大学院農学生命科学研究科 教授）

■昼食：奥矢作レクリエーションセンター会議室

② 奥矢作レクリエーションセンター会議室（恵那市串原）12:40～13:40

解説者：小林太郎氏（NPO 法人 奥矢作森林塾 代表）

③ 阿摺ダム（豊田市藤沢町）14:25～15:00

解説者：北井和人氏（中部電力㈱ 愛知水力センター 副長）

塩原秀樹氏（中部電力㈱ 愛知水力センター 主任）

神宮司優雅氏（中部電力㈱ 愛知水力センター 担当）

④ 阿摺ダム 下流部（豊田市藤沢町）15:05～15:45

解説者：山本敏哉氏（合同会社 TSJ ネイチャー）

■解散：愛知環状鉄道新豊田駅西口 16:30



2日目：9月14日（木）

■集合：愛知環状鉄道新豊田駅西口 8:45

⑤ アユのための再生事業（豊田市白浜町）9:05～9:40

解説者：安藤宏明氏（豊田市河川課・副課長）

上田裕敬氏（豊田市河川課 主査）

⑥ 鵜の首狭窄部周辺（豊田市秋葉町・野見町）9:55～10:30

解説者：国土交通省豊橋河川事務所

⑦ 家下川（豊田市柘塚東町）10:55～11:30

解説者：鶴田博嗣氏（豊田市博物館準備課 学芸員／家下川リバーキーパーズ）

佐藤邦彦氏（水土里ネット豊田 事務局長）

加藤敏明氏（水土里ネット豊田 工務係長）

■昼食：道の駅にしお岡の山

⑧ 矢作川浄化センター（西尾市港町）12:55～14:10

解説者：山口孝義氏（西三河建設事務所 都市施設整備課 課長補佐）

石田俊朗氏（愛知県水産試験場 漁場環境研究部長）

⑨ 東幡豆海岸（西尾市東幡豆町）14:55～15:40

解説者：石川金男氏（東幡豆漁業協同組合 組合長）

■解散①：名鉄西尾線西尾駅東口 16:20

■解散②：愛知環状鉄道新豊田駅西口 17:15



◆視察の状況

① 水源涵養モニタリング調査サイト（豊田市大洞町） 解説者：蔵治光一郎氏

2015年から東京大学が実施している水源涵養機能モニタリング調査を視察しました。間伐を実施した流域と間伐を実施していない流域における流量、土砂流出量、水質等の調査の目的、方法について解説していただきました。



気象観測施設。雨量・気温・湿度・風速・降雨水質等を測定している。



流域の最下流に設置された堰。水位が5分間隔で計測されており、時々刻々の流量データが取得されている。



2020年に間伐した森林。間伐割合は4割。倒した木は横に並べて置いている。伐り置きすることにより土壌が形成され保水力が高まる。



樹木に樹幹流採取器、林内に林内雨採取器を設置し、樹冠遮断量を観測している。



斜面からの土砂流出量の観測。土砂が箱に入り、水はホースを伝って容器に入る。



斜面からの流量の観測。雨どいを設置し、表面を流れた水が雨どいに入る。

② 奥矢作レクリエーションセンター会議室（恵那市申原） 解説者：小林太郎氏

「移住定住の促進と地域森林の再生」をテーマに、奥矢作森林塾の活動について講演していただきました。奥矢作森林塾では、「奥矢作の自然を活かす、楽しむ、そして繋ぐ。みんなでやろまいか！」を合言葉に、人口減少対策、森林の再生活動に取り組んでいます。

【講演内容】

- ・ 恵南豪雨災害について
- ・ NPO 法人奥矢作森林塾の沿革・組織・取り組み事業
- ・ 主な地域課題 人口の減少・森林の荒廃
- ・ 人口減少対策 移住定住促進活動
- ・ 人口減少対策 古民家リフォーム塾の活動
- ・ 人口減少対策 就農支援
- ・ 人口減少対策 移住希望者への地域紹介
- ・ 森林の再生活動 NPO・森林組合・林業事業者による森林管理と林業施業
- ・ 森林の再生活動 担い手の育成
- ・ 森林の再生活動 森林資源の有効活用
- ・ 森林の再生活動 環境教育
- ・ その他活動 伝統文化・食の継続 <ヘボの養殖/中山太鼓・どんと焼き>
- ・ その他活動 自然を活かした体験プログラム <カヌー体験>



③ 阿摺ダム（豊田市藤沢町） 解説者：北井和人氏、塩原秀樹氏、神宮司優雅氏

中部電力㈱愛知水力センターが保守管理している水力発電ダムである阿摺ダムを見学しました。見学にあたり、中部電力㈱愛知水力センターより、阿摺ダムの堤体、取水口、魚道等について説明いただき、堤体周辺を歩きながらダム設備を見学しました。



④ 阿摺ダム下流部（豊田市藤沢町） 解説者：山本敏哉氏

アユの生息環境改善の実験が行われた阿摺ダム下流約700mの地点で、アユ生息環境の回復の状況、河川環境と底生生物の関係について説明していただきました。本地点は、アユの生息数が減少したため、2017年に新しい礫を設置し、アユの確認数が増加したことから、河床の攪乱の頻度がアユの生息数に影響することが示唆されました。同様に、カゲロウ類、トビケラ類、カワゲラ類の優占状況の変化も河床の攪乱と大きな関係があることを説明されました。



⑤ アユのための再生事業（豊田市白浜町） 解説者：安藤宏明氏・上田裕敬氏

アユ等の生息環境を再生するため、リブ・グローイン河岸（二段水制工）の整備を行ったエリアを視察しました。リブ・グローイン河岸は水際の凹凸により水流に変化を持たせることで生物の生息環境を多様化する工法です。また内田臣一氏（愛知工業大学教授）より、このエリアではかつてオオカナダモの繁茂やカワヒバリガイの大量発生によりアユなどが減少しましたが、現在では多くの水生生物が生息する環境に変化していることが説明されました。



⑥ 鵜の首狭窄部周辺（豊田市秋葉町・野見町） 解説者：蔭山敦士氏

国土交通省では、豊田市街地の洪水被害を少なくするため、竜宮橋下流の狭窄部の川幅を100mから180mの広げ、水位低下をはかる事業を計画しています。鵜の首周辺を眺望しながら、事業により想定される効果について説明しました。



⑦ 家下川（豊田市榑塚東町） 解説者：鶴田博嗣氏・佐藤邦彦氏・加藤敏明氏

家下川リバーキープーズが取り組んでいる「魚のすむ水路を作ろう！計画」の現地を視察しました。この場所は、矢作川の河道内であったところを水田として干拓したところで、水田からの排水路を魚がすむ環境に改善していくことを目的に、各種取り組みが実施されています。取り組みとしては、コンクリートを剥がして人工の深みを作る、砂場をつくる、草を植える 等で、“生き物目線に立った川づくり”が進められています。



⑧ 矢作川浄化センター（西尾市港町） 解説者：山口孝義氏・石田俊朗氏

矢作川浄化センターで行っている窒素・リンの管理運転（＝社会実験）の方法、実施状況について、西三河建設事務所の山口孝義氏より説明していただきました。窒素・リンの放流によるアサリ・ノリへの効果について、愛知県水産試験場の石田俊朗氏より説明していただきました。その後、センター内の中央監視室を見学しました。

■水質保全と「豊かな海」の両立に向けた社会実験（山口孝義氏）

- ・ 社会実験の実施状況：2022年11月～2023年3月に実施し、今年度は2023年9月～2024年3月に実施している。
- ・ 栄養塩管理運転の計画：窒素は上限20mg/l（基準10mg/l以下）、リンは上限2mg/l（基準1mg/l以下）の計画で放流する。
- ・ 2022年度の栄養塩管理運転の状況：窒素の平均値は10.5mg/l、リンの平均値は1.28mg/lであった。
- ・ 入ってくる水の水質、放流水の水質は、中央監視室で管理している。放流水は矢作川に出ていく。



■2022年度の社会実験結果について（石田俊朗氏）

- ・ アサリへの効果：2022年度は2017～2021年度よりも現存量が多く、放流口から近い地点ほど変化が大きかった。肥満度は、放流口から遠い地点でも増加が確認された。
- ・ ノリへの効果：2022年度は2017～2021年度よりも色調が良好であり、特に放流口から近い地点での変化が大きかった。
- ・ 栄養塩の放流増加によりアサリやノリに良い効果があった。今後は、漁業生産に必要な栄養塩濃度の検討を行っていく。



⑨ 東幡豆海岸（西尾市東幡豆町） 解説者：石川金男氏

東幡豆の海岸を散策しながら、アサリやハマグリ の現状、トンボロ干潟での潮干狩りの状況、干潟に生息する生物の状況などについて説明していただきました。



◆アンケート結果（抜粋）

- ・ 山から海まで連続的にみることができ、課題を山川海に関連付けて認識することができた。
- ・ 東海豪雨のような事態に備える良い機会になった。
- ・ 訪問先が多すぎて、十分な議論ができなかった。今後は見学場所を絞り、意見交換の時間を拡大してほしい。
- ・ 参加メンバーが固定化しているのが残念だ。矢作川流域の課題に取り組むためには、流域市民が参加しやすい仕組みを作るべき。
- ・ 沿岸漁場の栄養塩不足に対応する現場の説明が中心で、その他の課題に対する学びがほとんどなかった。公共機関の研究結果の情報共有はもとより、漁業生産の現状開示も積極的に行って欲しかった。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 蔭山、建設専門官 宮本、技官 松田

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。

